

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

(別紙 3)

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内に掲示されている理念を職員全員が理解し、地域との連携を深め 安心して楽しく過ごして頂ける様心がけている。		地域との連携をより深めて行きたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時 唱和し実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	エレベーターで上がって正面(玄関)に提示している。		
2. 地域との支え合い				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	通勤時や外出時に近隣の方への挨拶や声掛けをこちらから励行している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、運営推進委員会のメンバーに協力していただいている。町内会や地区社会福祉協議会からの行事の誘いは来ているが参加はできていない。		地域からの招待は行事ごとにあるので参加していきたい。8月に行なわれた地区納涼祭へ下見に行き、来年に繋げたいと思う。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	郊外に立地している為近くに民家が少ないが、出来るだけホームの行事などへの声掛けを行なっている。		色々な行事の時に声掛けをして来訪して頂き、交流を深めたうえで 事業所の出来る事を探し、今後とも貢献していきたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者が、職員に評価の意義を説明し、前回の外部評価を活かして実践に繋げる様に努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は 地域包括支援センター職員、地域協力者、利用者、利用者家族などの参加により活動報告、活動予定や季刊紙を配布して話し合いが行なわれている。出席者より活発な意見が出て、サービス向上に活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへ季刊紙などが出来上がると届け、グループホームの現況などを報告しサービスの質の向上に繋がるようなアドバイスを頂いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	H19年8月に権利擁護センター活用の利用者が1名入居され、それまでのマニュアルだけの知識ではなく活用する事により 職員が学習し、理解する事が出来た。		玄関にパンフレットを設置している。研修会などを開催し今後も全職員の周知徹底を図りたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り時に口頭ではあるが 全職員に虐待について説明をし 防止に努めており虐待はありません。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、退居手続き時に十分な時間を取り ご家族の理解が得られる様に説明し 納得して契約をさせていただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱をグループホーム玄関に設置したり、日常のケアの中で利用者の変化に気付き 個別に話を聴ける雰囲気を作っており運営に反映させている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月 介護添書として生活の様子を文書にして手渡している。金銭管理も支出に対して家族双方に記録を渡し、季刊紙の発行や必要に応じて電話連絡をしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置や苦情窓口があることを家族に説明している。入所者担当職員を決め、家族とのきめ細かなコミュニケーションを取っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファや日頃の申し送りなどで 意見や提案を聞いている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	いつでも対応できるように 職員間で連携が出来ている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職、異動時は丁寧に事情を説明し、影響が出ないように その方へのケアの取り組みを変えないように配慮している。		離職しないような働きやすい環境作りに配慮している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	5. 人材の育成と支援			
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用にあたっては性別や年齢等の理由で採用対象から排除した事はない。現職員も幅広い年齢層で男女のバランスもよい。又、職員個々の特性や特技を活かした業務内容に取り組んでいる。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常に利用者に対する尊厳を重視しており、気になるような言動がある職員にはその場で注意を行ない他の職員にも人権の尊重について周知、徹底をしている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップのため資格取得を目指している職員に勤務時間などの配慮を行うなどバックアップを図っている。ホーム内のみでなくホーム外での研修にも積極的な参加の促しを行ない、実行している。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワーク作りの必要性を感じながらも限られた事業所との交流となり改善しなければいけないと思っている。		地域の同業者に働きかけるよう取り組みたいと思う。見学は随時来て頂いている。外出レク時や観劇など他グループホームの職員に同行してもらったり、年間行事の内容についての問い合わせなどに対応している。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員カンファや入居者カンファのほかに日頃の業務や運営に関する事など、全職員が毎月一度集まり何でも言えるミーティングの場を設けている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一人一人の職員に役割と責任を持った仕事をしてもらい、日々内容把握と評価、又相談を受けている。		
	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
	1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の会話をまめに行なう事で話しやすい体制作りをしている。又、本人より聴けない場合は家族や担当であったケアマネジャー、ソーシャルワーカーと連絡を取り情報を得ている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が来所の度意見をよく聴き、又、周りの人達から多くの情報を得よう努力している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話しを伺い、本人のケアがグループホームで対応できるかどうかの見極めに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とよく相談し 本人の馴染みの品の持込を促し、生活暦などを職員全員が把握し無理のないようにGHに少しずつ慣れていただき又、安心して暮らせるように配慮している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族から得た本人の性格、好みなどを把握し 否定することなく共感し、尊重し、見守りながら出来るだけ今まで通りの生活をして頂いている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの生活、及び心身の状態を家族に伝える機会を多くし 担当職員を決めその時々で家族の協力を得るようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、外食、行事等への家族の参加を促し 本人と家族との交流の機会を提供している。日々の面会時はくつろいだ雰囲気の場を提供している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の申し出があれば その方の馴染みの場所などへお連れしたり、会いに出かけたり、来て頂いたりしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合わせるように努めている	入所者一人一人の特徴、個性を把握し 共通の趣味や話題を返して孤立しない様に配慮している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方のその後の様子確認に訪問したり、家族との交流を続けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
	1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を把握し、出来る限り実施している。希望に添えない時は説明し、同意を得、代替の事柄で対応している。		全ての方の希望を実施するのは困難だが、公平さを欠かない様に実行に向けて 今まで以上に配慮したいと思う。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親戚、馴染みの方からより多くの情報を得たり センター方式のアセスメントを活用し、職員の情報の共有を促している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送り時に一日の様子の報告を受け、その積み重ねの情報を把握し 入居者カンファレンス時や職員ミーティング時に全員が理解するよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所の際 本人や家族からどのような生活を望んでいるかを伺い、関係者より情報を収集し 本人の状態を見極め介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、又 状態に変化が生じた時は サービス担当者会議を開催し新たな介護計画に反映している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間と記録を残しいつでも見れるようになっている。職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しているので機能訓練やレクリエーションで利用したり、母体が病院なので早めの受診を行い 同一法人内での情報交換を行なう事が出来ている為要望に応じた対応が出来るかの検討		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現時点ではあまり出来ていないが、消防避難訓練やボランティアの方のレクリエーション参加の訪問はある。		ボランティア募集のチラシを配布し広く募集している。又、町づくり推進課のアドバイスで長尾校区（市民センター）での交流を勧められているので実施したいと思う。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同一法人内のケアマネージャーに相談を行っており、他のサービス利用にあたっての情報を口頭ではあるがもらったりしている。		必要な時しか動いていないので 日頃よりかわりが持てるようにしたいと思う。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などで話題としては出るが、一步前に出ていないのが現状である。		8月からの入所者が権利擁護センター利用の方であったので、職員が今までより深く学習する機会があった。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切にし かかりつけ医の受診を最優先にしている。病状などの変化がある時はすぐに受診が出来る様な関係を築いている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所者が認知症専門医に受診する事も多く、受診時に認知症状に関する事などを質問しており 良い関係作りが出来るような支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、グループホームに看護職の配置は無いが併設しているデイサービスの看護師の協力を得、状況対応や助言を頂き身体状況の把握に努めている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の訪室や家族との話し合い、又、病状についてなど病院との情報交換に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアはしていない事や重度化した場合の話し合いを H19年3月の家族交流会の中で説明させて頂き、理解を得られたと思う。		入居者の状態の変化の都度 家族の相談を受け入れ、ホームからも説明を今まで以上にきめ細かくしていく必要があると思う。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアは行っていない。主治医へ相談を行っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には 本人、家族に見学に来てもらっている。退居時は話し合いの元で納得していただき、受け入れ先には十分な情報提供を行っている。		介護施設や有料法人ホームなどの資料をそろえ、問い合わせに迅速に対応したいと思う。
	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
	1. その人らしい暮らしの支援			
	(1) 一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に基づき 個々の違いを把握し誇りやプライバシーを傷つけないように対応している。広報誌などの掲載に関しては、必ず事前に家族の同意を得ている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の表情、しぐさ、言葉などから速やかに要求を察知するよう心掛けている。又、要求には出来る限り実現できるよう努力し、納得、自己決定を促している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入所者主体に考え行動している。その日の状態に合わせて配慮し、無理強いはいしていない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望者は馴染みのお店へ行かれるか、毎月一度ビューティーヘルパーによる理美容を実施している。		
56	食事を楽しむことができる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	デイサービスと併設の為に曜日以外には食事作りは行なわれていないが、盛り付け 配膳 後片付けなどは職員と一緒にこなしている。日曜日には食事作りや後片付けなど職員と一緒に会話をしながら行なっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望者には楽しんで頂いている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して、声掛けにより失敗回数の減少に努めている。その方一人一人の排泄パターンを職員が把握するようにしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	西・東2ユニットあるので 曜日や回数に関しては自由に入浴可能であるが、時間帯はほぼ決まっている。夜間は職員の対応人数に限りがあるので行って		夕食後の入浴が目標ですが、職員の配置に困難が有り課題である。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転が起きない様に 日中はなるべく離床していただき、夜間はゆっくり眠れるよう支援している。居室や通路の灯りにも配慮している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出、外食レクリエーションを個別に実施し 生き生きと生活できるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人持ちの財布を準備しており、買物レクの際は見守りのもと可能な限り自分で精算して頂いている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日などは施設周辺の散歩等を行なっている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、レクリエーション担当者の企画により遠方への外出を計画している。家族への声掛けも行なっている。		家族への声掛けは何度かしたが、いつも同じ家族が来られるので 他の家族にも参加して頂ける様工夫したいと思う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には全て対応している。手紙などの代筆をしたり 入所者が遠慮なく連絡が取り易い体制作りを心掛けている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ゆっくりして頂ける場所の提供、お茶などの提供、職員の笑顔の対応を心掛けており、実行している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引を全職員が認識している。又、マニュアルとしていつでも職員が見られるようにし、身体拘束0のケアを行なっている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊などの入所者もいるが リスクの高い入所者には常に職員の見守りを強化しており鍵のかけないケアに取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員が入所者の見守りを行ない 所在が確認出来るような体勢でケアを行なっている。職員が声を掛け合い、共通の確認を行なっている。夜間は2時間おきの巡視を行なっている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は入所者の目の届かない所に保管している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員カンファや担当者会議などさまざまな会議の場で職員の事故防止に対する意識付けを行なっている。研修会の参加やヒアリハットを作成し 全職員が回覧し再発防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員がスムーズに緊急時対応が出来るようにマニュアルを作成し、定期的に指導している。救急車の要請時、急変時は家族に連絡後 職員が必ず病院まで付き添っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。職員にはマニュアルを作成し、非難ルートを理解し誘導できるようにしている。		災害時の地域との連携を取っていききたいと思う。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時や面会時などに その時に起こりうるリスクを家族に説明し対応策を話し合っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行ない常に状態変化を見守っている。異変時はかかりつけ医と連携を取り、必要時は受診している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬を保管し、処方された薬の用量、用法は薬剤説明書にて確認している。又、チェック表を作成し 服薬確認後 必ずチェックしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事摂取量や水分量のチェックをし 運動を促し便秘にならない様にケアしているが、困難な時は医師処方による服薬のコントロールを行なっている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、確認を行っている。義歯の洗浄介助、残歯のケア介助、義歯の無い方などの舌苔のケアなどその方にあったケアの方法を行なっている		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェック表を記入し、一人一人の状態を把握できるようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し各ポイントに消毒液を設置している。職員、入所者共に手洗いの励行をしている。寝具類の定期的消毒、交換、居室の換気や清掃に配慮している。ノロウイルス対策では漂白剤入りの液でテーブル、イス、手すりなどを拭きあげている。インフルエンザの予防接種を入所者、職員もしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員の手洗い励行、賞味期限の確認を常に行っている。夜勤帯にて 台所廻りや器具、冷蔵庫の消毒を行なっている。		
	1. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホーム入り口がすぐわかる様に工夫している。入り易く、優しい雰囲気が出るように配慮している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔と安全を第一に 季節毎の飾り物や草花を飾り入所者が四季を感じられる様な工夫を常に考えている。耳慣れたBGMなどにも配慮している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さなスペース作りをしている。落ち着ける場所を見つめられるよう見守りと声掛けを行い 入所者同士が気軽に会話などが出来るスペースを確保している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な居室スペースを確保しており ゆったりとした雰囲気味わえるように心掛けている。又、本人家族と相談し 馴染みの品などを持って来て頂き居心地よく過ごせる様に配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に温度計を設置し 温度管理に配慮しています。入所者一人一人の状況に合わせた室温を設定している。換気には特に注意をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	回廊式の建物で 居室から手すりを使用できる様になっており、転倒を防ぎ整理整頓をして安全に生活できるよう工夫をしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前に名前や写真を掲示したり、トイレの場所を間違えないように明記するなど工夫をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回り、ベランダには畑や花壇があり 自由に手入れや散歩に出ることが出来活用できている。天候のよい時は、草抜きなどを入所者で行なったり、野菜を取りに行ったりもしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

周辺には緑が多く田舎を思い出される風景が、入所者お一人お一人に落ち着きをかもし出しゆったりとした時間を過ごして頂ける様 職員一同配慮しています。入所者各自の生活歴を理解し、その方の希望には出来る限り添えるように努力しております。又、孤立を防ぐ為 日中デイルームでの入所者同士のコミュニケーションが持てるような声掛けを励行し、生活リハビリ、毎日のレクリエーションへの参加を安全への気配りをしながら促しています。無理強いしないケアの大切さにも配慮しています。地域への外出や買い物などもその方の目的に合わせて実施し、満足して頂ける様にしております。

年中行事の参加や飾り付けにより 季節を感じて頂く事も欠かしません。

入所者の方の笑顔、職員の笑顔、又、やさしい声掛けと目線、共に時間を共有する楽しさを目標に日々ケアを実践しております。